

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）

代表：千葉茂樹

発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42

聖パウロ女子修道会内

TEL. 03-3479-3941 E-mail: info@signis-japan.org

http://signis-japan.org/

主のご降誕おめでとうございます。皆さまお元気でお過ごしのことと存じます。ニュースレター、「タリタ・クム！」の第5号（クリスマス号）をお届けします。この言葉は、イエス様が亡くなった少女を生き返らせた時に呼びかけた言葉で、アラマイ語で「起きなさい！」の意味です。さまざまな意味で今、神様から私たちに向けられた言葉だと思います。「タリタ・クム！」も刊行開始から1年がたちました。今後も情報を発信し続けたいと思います。来年もよろしくお願いします。

ニュース 「日本カトリック映画賞」受賞作の長崎上映会開催

2009年度日本カトリック映画賞受賞作品「風のかたち（伊勢真一監督）」の上映会が、11月21日（日）、長崎カトリックセンターにて行われました。企画されたのは、今年3月までカトリック中央協議会におられ、シグニス ジャパンの活動を共にして下さった下俣英知（しもさこ・えいち）神父様です。東京からはシグニス ジャパン会員2名が参加しました。当日は、関係者全員でスクリーンを吊り、会場準備をして、温かな雰囲気での“手作りの映画会”となりました。午後2回の上映後、それぞれ伊勢監督に短い講演をしていただき、入場者数は合計約200名、長崎らしく修道服のシスター方が印象的でした。監督の講演の中で、「病気で亡くなったお子さんも、今、こうしてスクリーンの中から、私たちにメッセージを送り続けてくれている」という言葉に、胸が熱くなり、まさに今、福音が私たちに届けられていると思いました。



終了後の交流会では、美味しい郷土料理をいただき、監督も長崎の信徒の皆さんと楽しく歓談されていました。これからも、積極的に地方での上映会を開催し、多くの方と映画を通して分かち合いのできることを願っています。興味のある方は、ぜひシグニス ジャパンまでお問い合わせ下さい。（泉塩子）

長崎大司教区のページ<http://www.nagasaki.catholic.jp/>

ミニミニ メディアリテラシー 「クリスマスの贈り物」

街のあちこちに、きらびやかなイルミネーションがまたたく季節が巡ってきました。その内包するモチーフの豊かさの故でしょうか。昔からクリスマス（Christmas）は、小説、映画、お芝居とさまざまなジャンルで取り上げられてきました。クリスマスといえば、3人の博士（賢者）の伝えが思い浮かびます。救い主の誕生を告げる星に導かれて、異国から高価な贈り物を携えてはるかなベツレヘムまで長い旅を続けた東方の3博士たち。古い伝えによれば彼らの名はカスパル（Caspar）、メルキオル（Melchior）、バルタザール（Balthasar）で、マギ（magi）と呼ばれる占星術の専門家だと言われています。

ところでこの3人以外にもう一人、救い主誕生の啓示を受けた賢者のお話があります。「四人目の賢者」です。彼の名はアルタバン。ペルシャの高名な医師にして学者、そして著名な祭司でした。最愛の妻子を失ってから長年生きる意味を探し求めてきた彼は、星の運行によって古い預言書に記された救い主の降誕を知ります。ためらうことなく全財産を売り払い、その価で贈り物とするサファイア、ルビー、真珠の宝石を買い求め、主を探し求める旅に出立します。途中、見も知らぬ病気の老人を助けたり、ヘロデ王の兵士に殺されそうになった赤ちゃんを救ったり、強盗に襲われたり、奴隷に売られる寸前の少女を救ったりしているうちに、大切な宝石をすべて失います。いつしか33年もの月日が流れ、自身も老いて病に臥す身となったアルタバンはようやくイエス様を探し当てます。しかしそれは十字架上の主でした。絶望の中で息絶えようとしたまさにその瞬間、イエス様が現れ、驚くべき真実を彼に告げるのです。この話は「4人目の賢者（THE FOURTH WISE MAN）」というタイトルでビデオ化もされています（1994年／女子パウロ会）。

主演の賢者アルタバンを、映画「地獄の黙示録」で鬼気迫る迫真の演技を披露した個性派俳優マーチン・シーンが演じているのも興味を引きます。著者は、19～20世紀にかけて活躍した有徳の教育者にして聖職者（長老派教会牧師）のヘンリー・ヴァン・ダイク（1852-1933）。この季節、ぜひご覧になることをお勧めします。ドイツのケルン大聖堂の保護聖人としても崇敬を集めている3博士の拝礼の旅は、童謡「月の砂漠」を連想させる何か詩情に満ちたメルヘンチックなものを想起させますが、そこに秘められた意味には深く厳しいものがあります。単調な日々の生活の中にあっても希望を失わず、救い主を渴仰して祈り続ける信仰。「時のしるし」を知るや、すべてを投げうって神を探しに出る勇氣と果敢さ。「砂漠の旅」といういつ果てるとも知れぬ巡礼を黙々と続ける忍耐と克己心。そしてそれらのすべてに優る慈愛のわざ……。さあ今年のクリスマス、私たちはどのようなプレゼントをイエス様に差し上げるのでしょうか。



名画万華鏡

『尼僧物語』

ふじさき ともゆき
藤崎 智之

良質の宗教映画がめっきり少なくなったと言われる昨今、このクリスマスに名作映画に触れてみるのはどうだろう。今回お薦めするのは、誠実かつ重厚な作品で知られ、2度のアカデミー作品賞・監督賞に輝く巨匠フレッド・ジンネマン監督作品の「尼僧物語 The Nun Story」(1959年、アメリカ映画)だ。1950年代は「宗教映画の全盛期」と評されるが、その中であってなお、代表作の一つに数えられる名作である。ベルギーの高名な医師の娘ガブリエラは、生涯を神と人に捧げ尽くす熱意をもって修道会に入会する。厳しい戒律、自己を律する数々の修練を経て終生誓願を宣立しシスター・ルークとなったガブリエラは、父と同じく医療を通した奉獻生活に踏み出す。優秀な成績で熱帯医学の試験に合格した彼女は念願のアフリカ・コンゴでの医療宣教に派遣される。使徒職への熱心さのあまり結核に倒れたり、修道女を殺せば家族の病気が治るとそそのかされた現地住民による同僚シスターの殺害など、多くの試練に遭いつつも、ひたすら奉獻生活者として歩み続ける。そうした中、第二次世界大戦が勃発する。ナチス・ドイツは中立国であるベルギーにも侵攻し、負傷者を救護中だった彼女の父はドイツ兵に機関銃で殺害される。同僚のシスターが殺された時でさえ「赦し」の必要を説いたガブリエラだったが、父の殺害を知ってドイツ軍をどうしても赦せない自分に苦悩する。愛を分け隔てなく与えるべく神にすべてを奉獻した自己と、修道女として敵を赦せない内面との激しい葛藤に懊悩(おうのう)するガブリエラ。ついに、対独レジスタンス運動に身を投じるべく修道会を去る。人間の内面を凝視し続けたジンネマン監督らしく、そこには甘いセンチメンタリズムもきれいごとくもハッピーエンドもない。ただ、究極の決断を迫られた人間の傷ついた魂の遍歴があるのみだ。「スクリーンの妖精」として世界中から愛された往年の女優オードリー・ヘップバーンの匂い立つ気品と修道生活の厳しさとが、この作品を美しくも格調高いものに仕上げている。

「ワーナー・ブラザーズ」配給。151分、1959年製作 監督：フレッド・ジンネマン 出演：オードリー・ヘップバーン

会員紹介

SNNを応援してください

すがまた としよ
菅又 俊世 (高円寺教会所属)

私は、ひょんなことから仕事を通して晴佐久神父に関わらせていただき、気がついていたら受洗していた“放蕩息子”です。息子と言ってももうすぐリタイアの年ですが……。SIGNIS JAPANにご縁をいただき、ホームページなどにも関わり、この度、SNNの立上げメンバーにも加わりました。

SNNとはSIGNIS GOODNEWS NETWORKの略で、SIGNIS JAPANを母体として生まれたインターネットを利用した動画配信を中心にしたウェブサイト(器)を運営する事業体です。現在、SIGNIS JAPANのメンバーが中心になって来春の試験配信を前に、テスト番組を作るなどの準備をしています。将来は「全国の皆様から寄せられたGOODNEWS」、「海外から寄せられたGOODNEWS」および「オリジナルGOODNEWS」を番組の柱として、一般の若者からお年寄り、キリスト教入門者からベテランの信者まで幅広い人々を視聴対象に、興味のある番組配信をしたいと思います。

特にこれからの時代を担う若者たちには、iPhoneに代表されるスマートフォンやiPadなどの情報端末が情報伝達(広報)ツールとして当たり前の道具になります。これまでのテレビにとって代わる時代が確実に来ています。すでに自分の部屋にテレビがない若者が多いのではないのでしょうか？ 私たちにはこのような若者たちにも福音を届ける手段(器)が必要です。暗いBADNEWSが氾濫している現代において、SNNは人々の心に福音(真実)を伝えることができるのではないかと、救いが届けられるのではないかと強い思いがあります。微力ながら残りの余生をできるかぎりこの事業にかけてみたいと思います。小さな予算でスタートしたSNNにご協力いただける方を広く募集しています。ご興味をお持ちの方なら誰でもinfo@signis-japan.orgまでご連絡ください。お待ちしております。

編集部便り 10月26日に上智大学講堂で国連世界食糧計画(WFP)のシーラン事務局長の講演を聴く機会を得ました。「世界には10億の空腹の人々がいる一方、10億の飽食の人々がいる。WFPの使命は全世界で飢餓と闘うこと。10秒に1人の子どもが餓死。1日コップ1杯のスープ(コスト30円)で勉強する子ども達。飢餓の主原因は貧困の連鎖や自然災害や紛争。多くの善意の人々・企業・団体の協力に感謝する」。心に残った言葉は「皆さんの世代で飢餓は克服できる」、「食糧がないのではなく、貧しい人々には食糧へのアクセスがない」。最後に「皆さんにも出来ることがある」と熱弁でした。知る、分かる、動くで、Make differenceが大事で、自分なりに動くことに決めました。(注)WFPは世界70数ヶ国1億人以上に食糧を支援。職員1万人、内、日本人60人。(町)

SIGNIS JAPANとは

SIGNISとは世界140か国に広がるカトリックのメディアに携わる人々の世界組織です。平和文化の促進、人間の尊厳擁護、子どもの権利擁護が近年のテーマです。司祭、修道者、一般信徒が参加しています。映画、放送、視聴覚、最近ではインターネットを活用した福音宣教に力を入れています。日本ではサンパウロ、女子パウロ会、中央協・広報のほか、ボランティアの信徒が活動しています。カトリック映画賞、インターネットセミナーなどのほか、これからはインターネット放送局への取り組みなど、さらに活動の幅を広げていきたいと考えています。



第34回日本カトリック映画賞の授賞式で幸田司教からトロフィーを受け取る伊勢監督



インターネットセミナー風景

賛助会員になってください！

私たちの活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年会費は一口3,000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、下記銀行口座、または郵便振替口座にお振り込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店

普通 1679019

SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹

郵便振替 口座番号：00100-0-534547

口座名称：SIGNIS JAPAN

連絡先：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42

聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN

info@signis-japan.org http://signis-japan.org/